

# 水辺保全活動に理解

## 奥州・岩大生が現況学ぶ 前沢など



岩瀬さん（右）から「大曲の水辺に夢をつくらう会」の水辺環境保全活動などについて話を聞いた岩手大の学生ら

岩手大人文社会科学部  
の1、3年生13人が23  
日、奥州市前沢白山など  
で学修活動を行った。北  
上川の水辺環境保全のほ  
か、宮城県石巻市での北  
上川河口清掃交流活動に  
も参加を続ける「大曲の  
水辺に夢をつくらう会」  
の初代会長岩瀬博さん  
(87)らから話を聞き、  
地域主体の取り組みや活  
動の現状に理解を深め  
た。

同学部地域政策課程環  
境社会学研究室担当の塚  
本善弘准教授によると、  
2016年度から同大1  
年必修科目・基礎ゼミナ  
ールの中で行われている  
「震災復興に関する学  
修」の一環。7月に石巻  
市で行われる北上川河口  
清掃交流活動に参加する  
学生に、事前学習として  
中流域での水辺環境保全  
活動や、活動に取り組む  
NPO法人・市民団体な  
どの状況を現地で学んで  
もらう機会にしようとい  
った。

・水生動物調査、モクズガ  
リ放流の活動について触  
れた。

また、北上川流域市町  
村連携協議会などにより  
同年から東日本大震災前  
年まで石巻市(旧北上  
町)で続いた北上川河口  
域ゴミ清掃活動(海岸清  
援隊)、震災後NPO法  
人奥州・いわてNPOネ  
ットなどを事業主体に民  
間主導で再開した現在の  
清掃活動への参加協力に  
も言及。岩瀬さんは「大  
曲の活動は住民主導の流  
れで、あとで行政がつい  
てきた。みんなの思いを  
集めた積み重ねがきょう  
まで来た」と語った。

学生からは、小学校閉  
校後の子供たちとの活動  
状況などに質問があり、  
岩瀬さんは「閉校で」  
交流機会がなくなった。  
地域の子供も少なくなっ  
ている」と地元の厳しい  
現状を示した。

白山地区では同法人の  
菅原恵子理事長からも取

り組みについて話を聞い  
たほか、一関市でも学修  
活動を行った。

岩手日日 2018年6月24日付朝刊

※この記事・写真は、岩手日日社の許諾を得て転載しております。